

地震被害想定の見直し

大阪府では、地下構造に関する調査結果など、最新の知見やデータをもとに、学識経験者等からなる自然災害総合防災対策検討委員会を設置し、地震被害想定の見直しを行ってまいりました。

平成18年10月30日に開催された第5回検討委員会で、上町断層等による地震の震度予測図、建物被害や人的被害等について取りまとめを行いました。

(1) 震度の予測

次々頁以降をご覧ください。

(2) 建物被害の予測

(単位：棟)

	全壊棟数	半壊棟数
上町断層帯A(北中部大)	362,500	329,500
上町断層帯B(南部大)	219,000	213,000
生駒断層帯	275,500	244,000
有馬高断層帯	85,500	93,000
中央構造線断層帯	28,000	42,000
東南海・南海地震	22,500	48,000

(3) 人的被害の予測

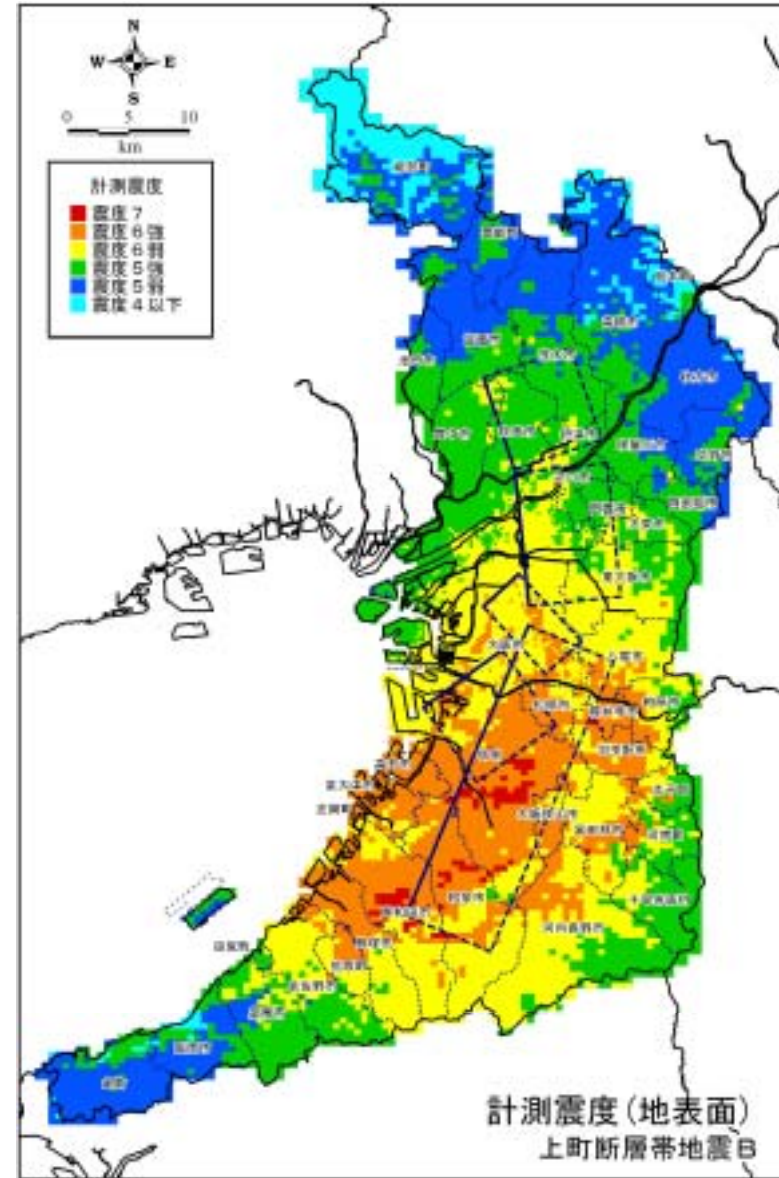
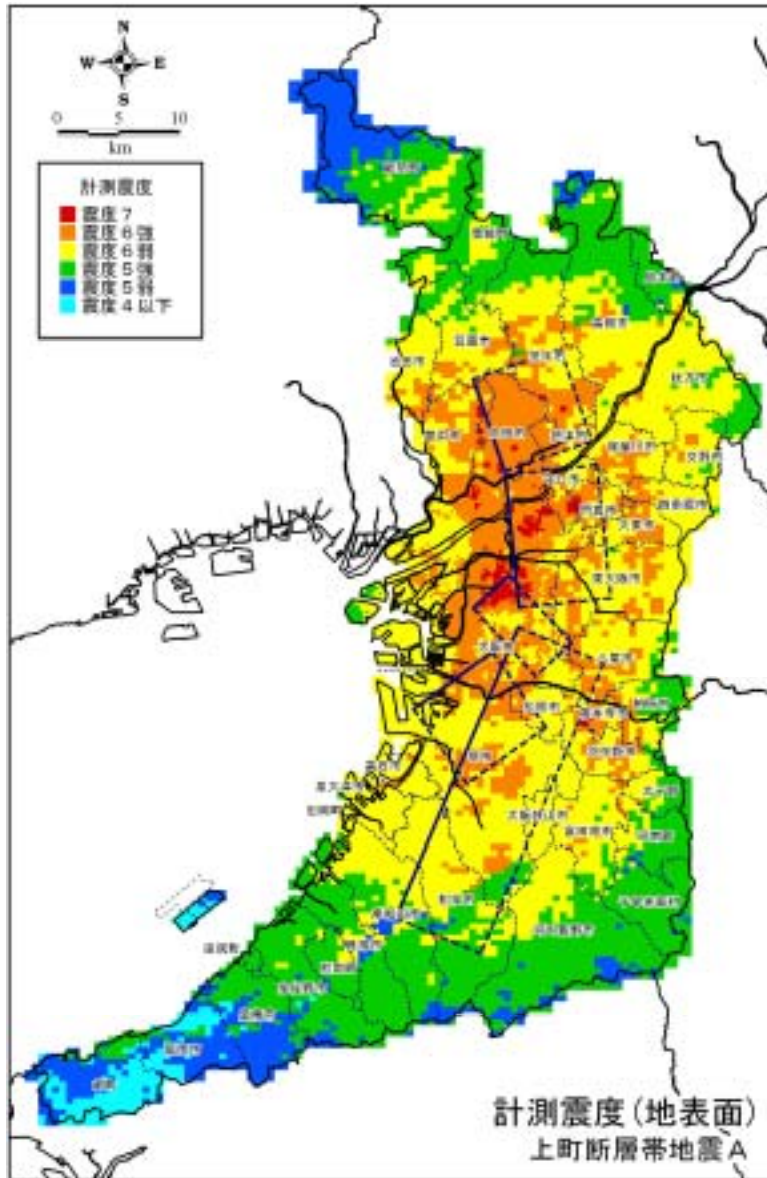
(単位 : 人)

	死者数	負傷者数
上町断層帯 A (北中部大)	12,700	148,800
上町断層帯 B (南部大)	6,300	90,500
生駒断層帯	9,800	101,300
有馬高断層帯	2,500	45,900
中央構造線断層帯	340	16,200
東南海・南海地震	100	22,000

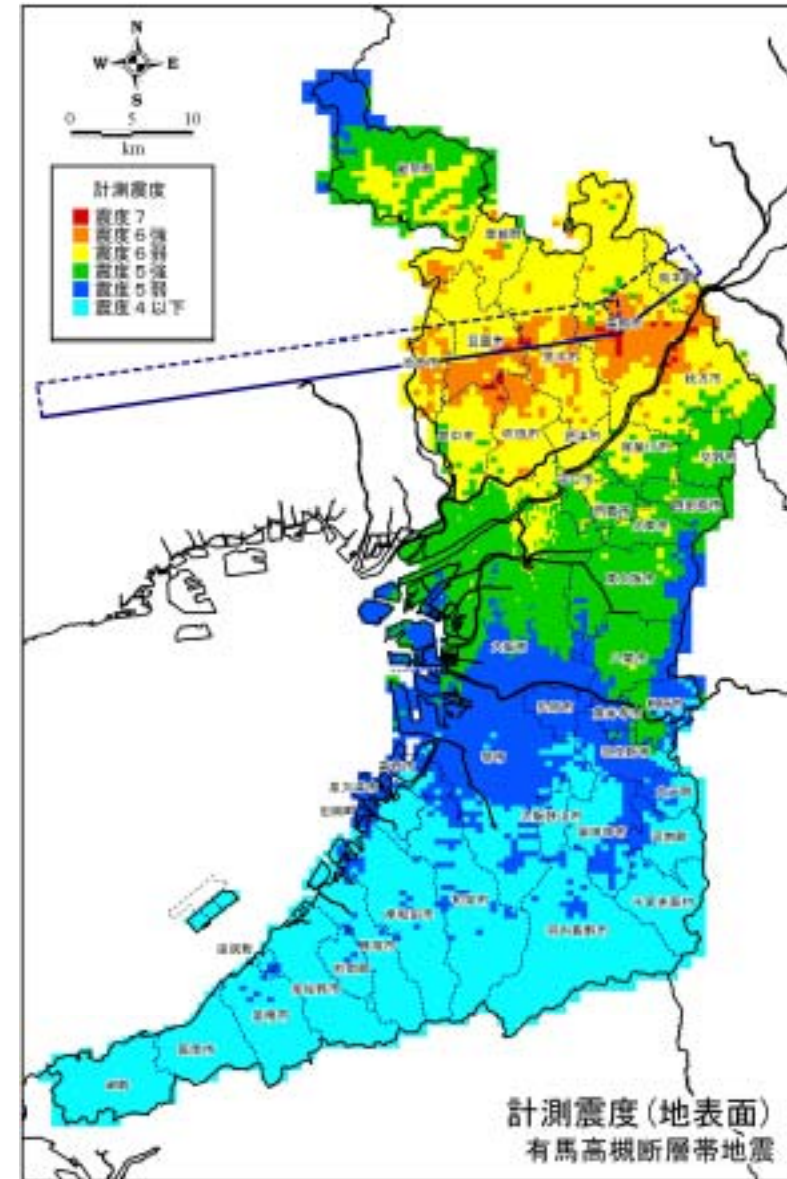
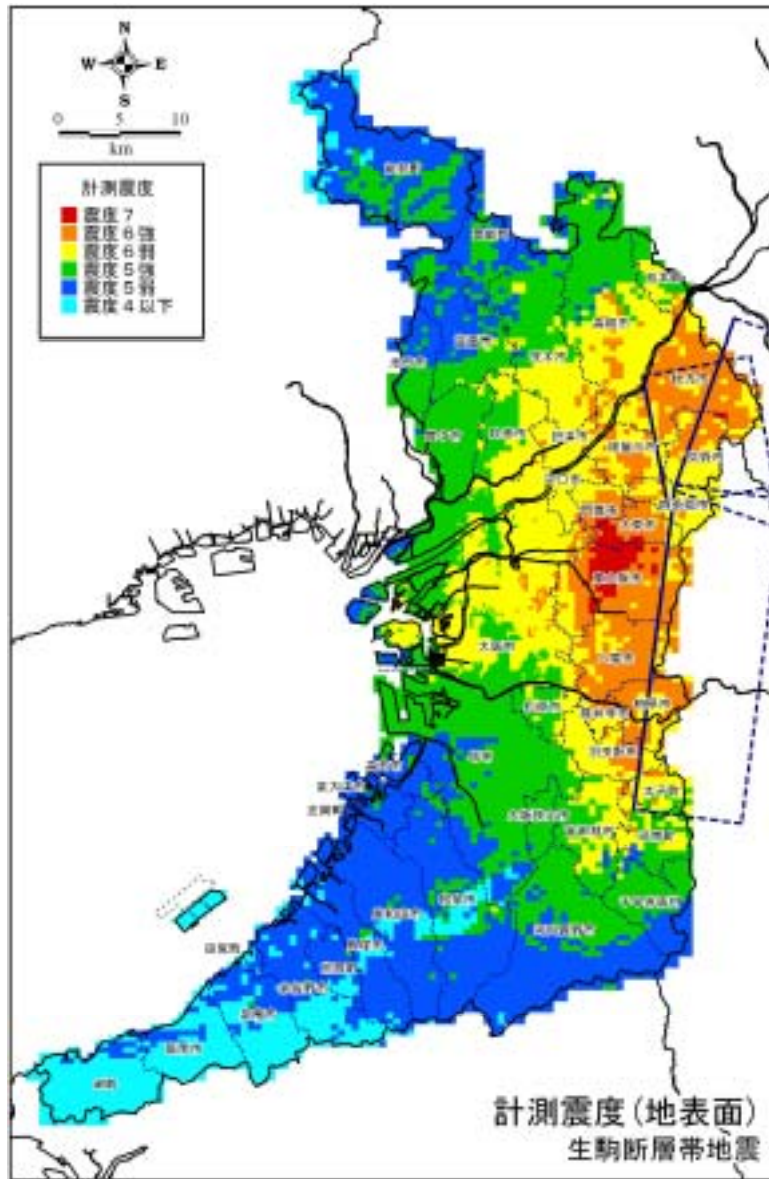
(4) 経済的被害の予測

(単位 : 兆円)

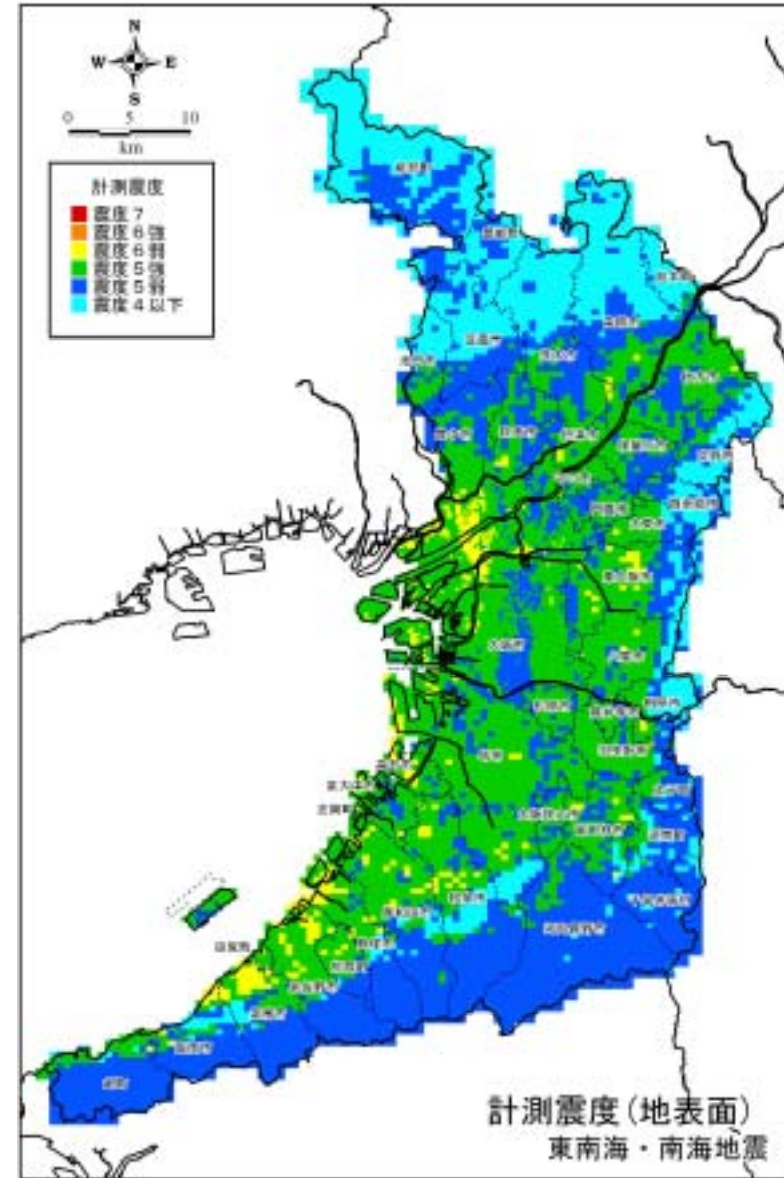
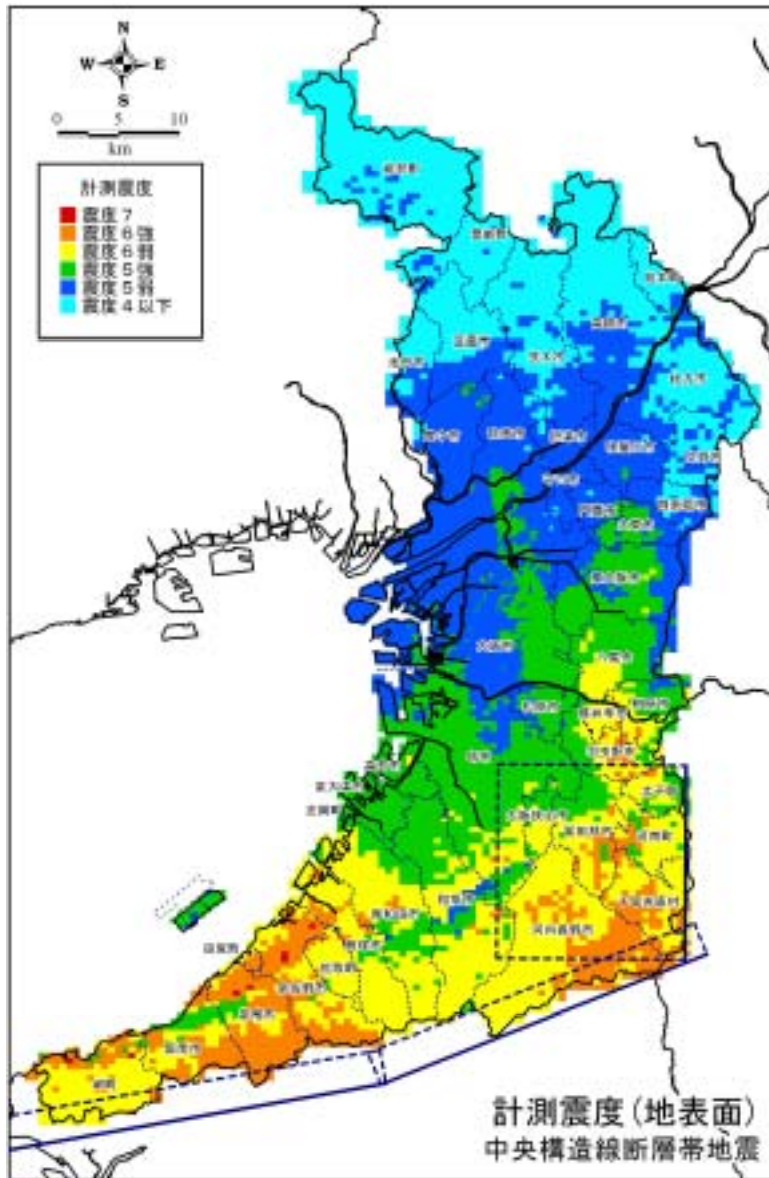
	直接被害	間接被害	計
上町断層帯 A (北中部大)	11.4	8.2	19.6
上町断層帯 B (南部大)	7.0	5.2	12.2
生駒断層帯	8.3	4.1	12.4
有馬高断層帯	2.8	1.7	4.5
中央構造線断層帯	1.1	1.4	2.5
東南海・南海地震	1.4	0.1	1.5



これらの震度予測は、断層のアスペリティ（特に強い揺れを発生する部分）や破壊開始点を仮定して予測したものであり、実際の揺れは異なることも考えられます。



これらの震度予測は、断層のアスぺリティ（特に強い揺れを発生する部分）や破壊開始点を仮定して予測したものであり、実際の揺れは異なることも考えられます。



これらの震度予測は、断層のアスペリティ（特に強い揺れを発生する部分）や破壊開始点を仮定して予測したものであり、実際の揺れは異なることも考えられます。